

平成16年7月6日

担当者各位

シンフィツム（いわゆるコンフリー）、アカネ色素等の飼料における取扱いについて

別添のとおり、シンフィツム（いわゆるコンフリー）、アカネ色素等の飼料における取扱いについて注意喚起を行うこととなりましたので、御了知、御周知頂きますようお願い致します。

なお、コンフリー以外で作用の強いPAs（ピロリジジナルカロイド）を含むと考えられている *Heliotropium*（ヘリオトロピウム属またはキダチルイリソウ属）、*Crotalaria*（タヌキマメ属）、*Senecio*（セネシオ属またはキオン属）については、別紙のものが想定されておりますが、これらの植物を飼料または飼料原料として意図的に使用しないよう畜産農家等関係者へ注意喚起方指導をお願い致します。その他ご不明の点あれば、下記担当までお願い致します。

担当

農林水産省消費・安全局衛生管理課

薬事・飼料安全室 江上、西田

代表：03 - 3502 - 8111（3173、3174）

直通：03 - 3502 - 8097）

作用の強いピロリジジナルカロイドを含む可能性のある植物一覧

科 (families)	属 (genera)	種	分布域	備考 (非意図的に食する可能性)
ムラサキ科 (Boraginaceae)	シソ属 (<i>Symphytum</i>)	コンフリー (<i>S. officinale</i>)	国内 (路傍等)	この属の中で、国内に自生 (外国から輸入され、路傍に散逸) しているものは、コンフリーのみと考えられる。
		フ リックリ-コンフリー (<i>S. asperum</i>)		
		ロシアンコンフリー (<i>S. x uplandicum</i>)		
	ヘリオトリス属またはサトウハチロー属 (<i>Heliotropium</i>)	サトウハチロー (<i>H. arborescens</i>)	未確認	この属の植物は、園芸木本としてヘリオトリス (香水の原料ともなる) の仲間が栽培されている。しかしながら、家畜等が食することは通常では考えられない。
		アキニム (<i>H. crassavicum</i> L.)	1973 (分布域未詳)	
		サトウハチロー (<i>H. indicum</i>)	未確認	
		ニオイム (<i>H. corymbosum</i> Ruiz et Pav.)	未確認	
	シヤセムラサキ属 (<i>Echium</i>) 参考までに掲載	シヤセムラサキ (<i>E. plantagineum</i> L.)	1997 (分布域未詳)	
		シヤセムラサキ (<i>E. vulgare</i> L.)	1969 (分布域未詳)	
	キク科 (Asteraceae)	セネシオ属またはキク属 (<i>Senecio</i>)	ヤコブ コウリンキク (ヤコブ ホウキク) (Tansy Ragwort) (<i>S. jacobaea</i>)	本州中部地方の高山 (長野県八ヶ岳山麓等)
カンナ (<i>S. cannabifolius</i> Less.)			本州中部以北	
ホウキク (<i>S. vulgaris</i> L.)			明治の初めに帰化	
キク (<i>S. nemorensis</i> L.)			国内 (山地)	
コウリンカ (<i>S. flammeus</i> Turcz. subsp. <i>glabrifolius</i> (Cufod.) Kitam.)			国内 (日当たりの良い山地の草原)	
オカク (<i>S. integrifolius</i> (L.) Clairv. subsp. <i>fauriei</i> (Lév. et Vant.) Kitam.)			本州、四国、九州	
サワク (<i>S. pierotii</i> Miq.)			本州、四国、九州、琉球諸島 (日当たりの良い山間の湿地や田の畦)	
サワキク (<i>S. nikoensis</i> Miq.)			北海道、本州、四国、九州	

		イヅク ^ル (<i>S. pseudo-arnica</i> Less.)	北海道及び青森(砂浜の海岸、道端、畑)	
		コウリンギ ^ク (<i>S. argunensis</i>)	九州	
		タカネコウリンカ(<i>S. takedanus</i>)	本州中部地方の高山	
		キハナコウリンカ(<i>S. furusei</i>)	関東地方	
		ミヤマオグ ^ル (<i>S. kawakamii</i>)	北海道	
		マツハ ^{サワキ} ^ク (<i>S. blochmaniae</i> E. L. Green)	1994(分布域未詳)	
		ダイコク ^{サワキ} ^ク (<i>S. inaequidens</i> DC. var. "daikoku")	1991(分布域未詳)	
		シンコウ ^{サワキ} ^ク (<i>S. inaequidens</i> DC. var. <i>inaequidens</i>)	1991(分布域未詳)	
		マルト ^{サワキ} ^ク (<i>S. madagascariensis</i> Poir.)	1976(分布域未詳)	
		アレチ ^ホ ^{ロキ} ^ク (<i>S. sylvaticus</i> L.)	1998(分布域未詳)	
		ハナ ^ホ ^{ロキ} ^ク (<i>S. vernalis</i> Waldst. et Kit.)	1975(分布域未詳)	
		ネ ^ホ ^リ ^ホ ^{ロキ} ^ク (<i>S. viscosus</i> L.)	未確認	
		ホ ^{ロキ} ^ク (<i>S. vulgaris</i> L.)	未確認	
マメ科(Fabaceae)	タヌキマ属(<i>Crotalaria</i>)	タヌキマ(<i>C. sessiliflora</i> L.)	琉球諸島、九州、四国、本州の宮城県まで	日本南部を中心に自生しており、路傍にまれに見かけることから、放牧中の牛がこれを食べる可能性はゼロとは言えない。
		ガク ^{タヌキマ} (<i>C. calycina</i> Schrank)	八重山諸島	
		ヤイヤ ^マ ^{タヌキマ} (<i>C. linifolia</i> L. fil.)	八重山諸島	
		サン ^{ハンプ} (^{アサ} ^{タヌキマ})(<i>C. juncea</i>)	種子が市販されており広く野生化	
		アメリカ ^{タヌキマ} (<i>C. anagyroides</i> H. B. K.)	1972(分布域未詳)	
		コガ ^ネ ^{タヌキマ} (<i>C. assamica</i> Benth.)	未確認	
		ハ ^ネ ^{タヌキマ} (<i>C. bialata</i> Schrank.)	未確認	
		イ ^ン ^カ ^{タヌキマ} (<i>C. bialata</i> Schrank.)	1972(分布域未詳)	

	クワタリア(<i>C. juncea</i> L.)	未確認
	オオミヅバ タヌキマメ(<i>C. pallida</i> Ait.)	未確認
	ハウチワタヌキマメ (<i>C. quinquefolia</i> L.)	1947 (分布域未詳)
	エダ ウチタヌキマメ(<i>C. uncinella</i> Lam.)	未確認
	アフリカタヌキマメ(<i>C. zangibarica</i> Benth.)	未確認

「朝日百科植物の世界」(朝日新聞社)、「日本の野生植物」(平凡社)、「日本生態学会外来種リスト」(http://www003.upp.so-net.ne.jp/consecol/alien_web/index.html)、Natural toxicants in feeds, forages, and poisonous plants (P.R. Cheek, Interstate Publishers, Inc, 1998)より出典